

茨木市立福井小学校

(様式4-2：令和5年度 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる教員支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称：福井地域の交通問題とクルマ社会の環境問題						
2. テーマ：3年 公共交通の使い方 4年 SDGsと環境問題 5年 クルマ社会の問題点 6年 僕らができる公共交通機関の利用マナー						
3. 実施教科：3年 総合・社会 4年 総合・理科 5年 社会 6年 総合・道徳						
4. 関連単元：3年 安全な暮らしを守る（社会） 4年 環境問題を考えよう（総合） 5年 日本の工業（社会） 6年 礼儀正しいふるまい（道徳）・循環する地球（理科）						
5. 実施単元数：3年 3時間 4年 12時間 5年 14時間 6年 道徳 1時間・理科3時間						
6. 学年	3年		7. クラス数	2クラス	8. 生徒数	55人
	4年			1クラス		34人
	5年			2クラス		63人
	6年			2クラス		60人

9. 実施内容

3年 福井小校区の安全

- ・福井小学校の目の前を走る府道と近くを走る国道など道路について知る。
- ・府道の一日の通行量
- ・車・バス・トラックなどの通行量と排出ガスについて知る。
- ・移動手段としてのバスの有用性に気が付き、実際に乗車体験を試みる。

4年 SDGs と環境問題

- ・さまざまな環境問題を勉強する中で、自分たちの一番身近な問題について考える。
- ・大気汚染の原因を知る。
- ・これから大気汚染を改善するためにこれから自分たちができることを考える。

⇒これまで遠足で自分たちだけのバスを予約していたが、路線バスや電車を活用することで、環境にやさしい遠足ができるのではないかと考え、実際に調べたルートを使って行って見た。

5年 日本の工業

- ・工業の中で自動車産業が日本の工業の中心であることを学ぶ。
- ・身近な乗り物である自動車について詳しく調べる。
- ・昔の乗り物なども調べる。(実際に映画村に昔の電車を見に行く。)
- ・4年で学んだSDGsと環境問題を振り返り、これから自分たちができることを考えた。
- ・また次年度に向けて、バスや電車などの乗る際にマナーや乗り方についても学んだ。

6年 礼儀正しいふるまい(道徳)・循環する地球(理科)

- ・公共交通機関や公共の場所を使う際のマナーについて学び実際にやることで体験的にマナーを身に付ける。
- ・これまでの学習から、自動車が出す排気ガスが地球に悪影響を及ぼしていることを学んだ。実際に調べ学習として再度乗り物の排気ガスについて調べ学習をして、未来のために今自分たちができることを考えていく。

10. 学習のながれ：
3年乗車体験のようす



※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

10. 学習のながれ：

4年生

第一次 SDGs って何？

- ・SDGs について参考資料をもとに考える。

第二次 地球環境の問題

- ・地球温暖化
- ・二酸化炭素による環境破壊
- ・森林伐採
- ・水質汚染

などの環境問題を調べる。

第三次 福井小の周りの環境 (交通環境学習)

- ・福井小の周りには大きな道路が走っていること。
- ・北大阪ターミナルなどの大きな物流倉庫がある。
- ・渋滞ポイントもあり

第四次 クリーンエネルギーについて調べよう

第五次 私たちにできること



【成果】

これまで何気なく使っていた自動車が環境に及ぼす影響や渋滞の原因に気が付き、これまでの生活習慣を見直す機会になった。

体験学習としてバス・電車の利用をしたことで、バスの乗り方、降り方について学び、家に帰ってからも習い事の行きかえりにバスを利用するなど、身近な交通機関として感じる事ができるようになった。これからは、電気自動車やより排ガスの少ないエコバスなどの存在に気が付いて、さらに調べて行けると考える。

10. 学習のながれ

5年

社会 自動車産業とクルマ社会

- 1次 日本の産業について
- 2次 日本の産業の中心であるクルマ産業について
- 3次 世界の中で日本のクルマ
- 4次 クルマ社会の問題点
- 5次 環境を守るさまざまな工夫
- 6次 私たちにできること

6次では、「私たちにできること」「公共交通機関の歴史」「産業発展の歴史」について学習をした。その中で昔の公共交通機関の様子や実際の乗り物を見ること、また「私たちにできること」の中では、現在の公共交通機関の使い方について学んだ。路線バスについては、使ったことがない児童が半数を占め、学校で身近な交通機関の使い方について指導する必要があると感じた。また、乗車料金をそれぞれに渡して、実際に乗車してみることで、今後も子どもたちの身近な交通機関として、日常の中で使えるようになっていってもらいたいと考える。



10. 学習のながれ

6年



公共交通機関の利便性や他の交通手段と比べてどのような良さがあるのかをレポートにまとめ、SDGsの視点からこれからの自分たちの暮らしについて考えた。また、実際に使うときに気を付ける点や利用の仕方について考えた。

公共交通機関については、電車、バス、モノレールと身近な交通手段を使って神戸の青少年科学センターに行き、さらに科学的な視点で排気ガスや都市計画について学んだ。

【成果】

これまで、バスの利用についてなんとなくハードルを感じており、普段の習い事の送迎などに自家用車で送ってもらっていた子どもたちがバスで通うようになったという声が保護者から聞こえるようになった。学校の学習としてきちんとバスや電車を使ったことにより、利用の仕方が明確になり、公共交通機関が身近で便利な移動手段として感じるようになった。

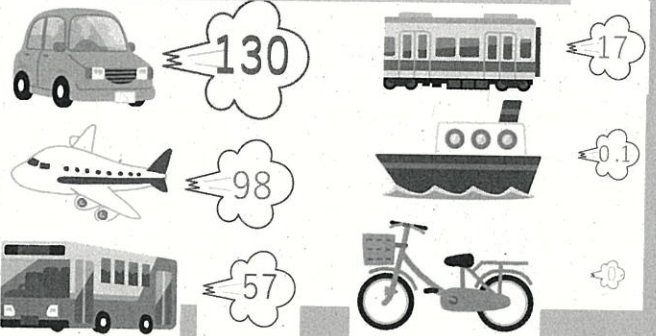
まとめ

- ・ 1番環境に良いものは自転車であるが、行けるきより、場所には限りがある
- ・ 海などをこえる時、基本は船が1番環境に良いが例外もある

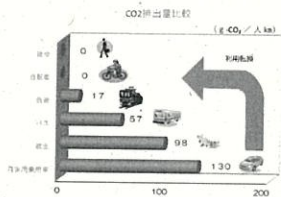
1班 大谷なゆこ

4/10

1km進んだ1人分のCO2の排出量 (g/人)



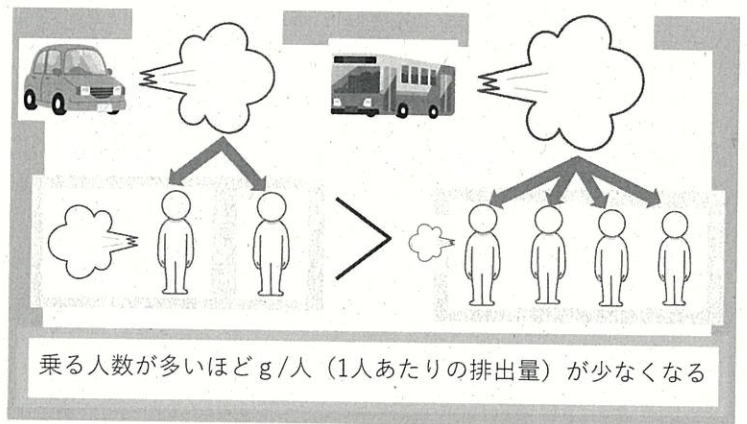
1/10



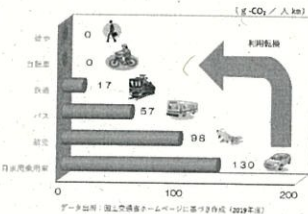
1班

この様にこの図をみたら自転車が1番排出ガス（二酸化炭素）がすくないことがわかります

5/10



2/10



1班

左側をみてもらうと電車が1番温室効果ガス（二酸化炭素）排出量が1番少ないことがわかりました

6/10

環境に優しい乗り物として挙げられるのは、「自転車」、「船」、「電車」である。

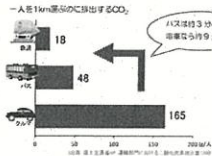


しかし、あまりにも遠い所に行くときは船や電車を乗り継ぐよりも飛行機で行った方がよい場合もある

3/10

電車・自動車の排気ガスの量について

人を一人運ぶのに使う二酸化炭素は、
 車の場合、165 g
 鉄道【電車】の場合、18 g
 以上の通り鉄道は車【自動車】より少なく排出する。



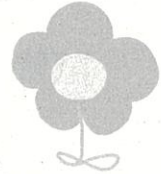
②排気ガスの排出をなるべく少なくする移動手段は、車やバスなどの自動車ではなく鉄道【電車】を使うと排気ガス排出量が少なくできるのでなるべく鉄道を使った方がいい事がわかります。

10/10

排出量

自動車	130g
飛行機	102g
船	43g
バス	55g
電車	25g

この結果から、排出量が一番多いのは自動車で一番少ないのは電車だと言うことがわかりました。これを通して排出量を出さないようにしたいと思います。



7/10

自動車	132	
飛行機	124	(排出量)
バス	90	
電車	25	
船	43	

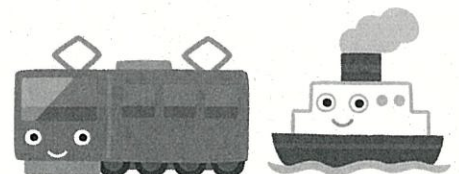
8/10

1kmあたりの排気ガス量

バス…55 g
 電車…18 g
 自動車…113 g
 飛行機…98 g
 船…0.043 g

1 番優しい移動手段

普通に移動するなら電車！
 貿易の場合は船！



9/10